

# 輝く!! 富(む)山の仕事人!!

川上~川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。

今回紹介するのは、新川森林組合朝日支所で作業班員として活躍する瀬川大輔さんです。



瀬川 大輔さん

新川森林組合 森林作業員

瀬川 大輔さん

## 2 山で働く

最初の年は、無花粉スギの植栽作業、雪起し・下刈などの保育作業に加えて、作業歩道の設置、除伐、クマ剥き対策のロープ巻き付けなど、さまざまな業務を経験され、翌年からは、伐採・搬出チームでチーフソーザーを握ることに。2年間の地域おこし協力隊の任期を終える頃、すっかり山仕事を染まつた瀬川さんは、引き続き新川森林組合で林業に従事する道を選んだのです。

人工林の間伐・主伐など林業の現場以外にも、治山事業の現場で急斜面に丸太筋工を設置したり、海岸でマツクライムシ被害木を伐倒したりと、さまざまな業務に携わって経験を積みながら、昨年には林業機械に関する全ての免許を取得し終えました。



高校生林業体験での伐倒デモ

## 3 仕事への思い

木は、一本一本、生え方も形状も異なるため、いかに安全に上手く伐倒するかに苦心するが、それがやりがいもある。自分が間伐や皆伐を行った現場を通りかかって、綺麗になつているのを眺めたときは、充実感を感じる、と話されます。

職場の雰囲気は、アットホームで優しく、林業の経験も皆無で、右も左もわからなかつた頃から丁寧に指導してもらつていい。これからも伐倒技術を磨いて、昨年くらいから少しずつ行つてある特殊伐採など、山以外にも色々なシチュエーションで木を伐れるようになりたい、とのことですね。富山へ移住され、貴重な林業担い手として、情熱を持って森林施業に取り組まれる瀬川さんの、益々のご活躍を祈念します。

文責 新川農林振興センター林政・普及班

瀬川さんは、神奈川県出身の43歳で、前職は東京で営業の仕事に就いていました。登山が好きだったこともあって、自然と関わる仕事がしたいと思っていた折、朝日町の地域おこし協力隊で林業分野の募集があり、応募・移住を決意。ずっと太平洋側に住んでいたので、今度は日本海側に、と富山を選んだとのことです。

それまで林業の経験は全くありませんでしたが、協力隊員として新川森林組合で働くこととなり、平成30年1月の大雪の中、一抹の不安を抱きながらも朝日町に移り住みました。